

<平成26年度秋季大会シンポジウム>

魚類における新しいタンパク質Calycin研究の新展開： α 1-酸性糖タンパク質， フグ毒結合タンパク質，ウナギ蛍光タンパク質

日時・場所：平成26年9月22日（月）10:00～16:30・（大会実施委員会にて記入します）

企画責任者：大嶋雄治（九大院農）

10:00～10:15 趣旨説明 大嶋雄治（九大院農）

I. 魚類におけるCalycin 座長 沖野 望（九大院農）

10:15～10:45 1. 魚類におけるCalycinの分子進化～フグ科魚類TBT-bps, PSTBPsを中心に
橋口康之（大阪医科大医）

10:45～11:15 2. ニホンウナギ筋肉由来のタンパク質UnaGのビリルビン結合依存的蛍光活性
熊谷安希子（理化学研）

11:15～11:45 3. ヒト α 1-酸性糖タンパク質の構造と機能 丸山 徹（熊大薬）

11:45～13:00 休憩（昼休み）

II. 魚の α 1-酸性糖タンパク質 座長 隠塚俊満（水研セ瀬水研）

13:00～13:30 1. 胎生魚オキタナゴの卵巣腔液主要タンパク質 F-AGPの特性と機能
中村 修（北里大海洋）

13:30～14:00 2. トリブチルスズ等異物結合タンパク質の機能解明 大嶋雄治（九大院農）

14:00～14:10 休憩

III. フグ毒結合タンパク質 座長 荒川 修（長大院水環）

14:10～14:40 1. フグにおけるフグ毒（TTX）の体内動態とTTX結合タンパク質の発現状況
辰野竜平（長大院水環）

14:40～15:10 2. フグのSTX, TTX結合タンパク質の性状と機能の推定 山下まり（東北大院農）

15:10～15:40 3. フグ肝臓と卵巣におけるフグ毒蓄積タンパク質 長島裕二（海洋大）

15:40～15:50 休憩

IV. 総合討論 座長 大嶋雄治（九大院農）

15:50～16:25 総合討論 講演者全員

16:25～16:30 閉会の挨拶

企画の趣旨

近年、水生生物において β -バレル構造を持ち体内で種々の低分子と結合するCalycinスーパーファミリータンパク質群が注目されている。ビリルビンと結合するウナギ蛍光タンパク質UnaG, α 1-酸性糖タンパク質としてオキタナゴ卵巣腔液主要タンパク質, TBTと結合するタンパク質, それが分子進化しテトロドトキシンと結合する機能を持ったフグ毒結合タンパク質等いずれも興味深いタンパク質が報告され今後様々な方面への展開が期待される。本シンポジウムではこれまでに得られた知見を集約して、今後の研究の発展を促し、水産学の発展に寄与することを目的とした。

